

令和3年度第3回川崎市農業振興計画推進委員会議事録（摘録）

- 1 開催日時 令和4年2月8日（火）14時00分～16時00分
- 2 開催場所 川崎市都市農業振興センター（高津区梶ヶ谷2-1-7）3階会議室
- 3 出席者
 - 出席委員（15名 ※書面意見申出7名含む）
竹本委員、徳田委員（書面）、梶委員、越畑委員、長谷川委員（書面）、新堀委員（書面）、
牧野委員、岩井委員（書面）、石井委員、大西委員（書面）、遠藤委員（書面）、野村委員、
堀委員、秋元委員、堀越委員（書面）
 - 事務局（6名）
都市農業振興センター所長（齋藤）、
農業振興課長（伊東）、農地課長（久延）、農業技術支援センター所長（井上）、
農業振興課農政係長（田中）、農業振興課農政係（坂東）
- 4 議題（公開）
 - （1）川崎市農業振興計画中間総括冊子案について
 - （2）令和3年度の実績及び令和4年度の主な農政事業について
 - （3）川崎市農業振興計画推進委員会の委員改選について
 - （4）その他（事務連絡）
- 5 傍聴者
2名
- 6 会議の内容（摘録）
 - 『1 開会・あいさつ』
 - （1）開会（田中農業振興課農政係長）
令和3年度第3回川崎市農業振興計画推進委員会の開会を宣言
 - （2）開会挨拶（齋藤都市農業振興センター所長）
 - （3）配布資料確認、委員会目的及び会議公開の確認（田中農業振興課農政係長）
 - （4）傍聴者の遵守事項の説明（田中農業振興課農政係長）

『2 川崎市農業振興計画中間総括冊子案について』

【竹本会長】

事務局から説明願いたい。

【事務局：伊東課長】

資料1川崎市農業振興計画中間総括冊子案、資料2川崎市農業振興計画中間総括冊（前回提示案）資料3前回からの冊子変更箇所対照表、を基に前回指摘事項含め説明。

【竹本会長】

説明頂いた資料1川崎市農業振興計画中間総括冊子案について、各委員の皆様から御意見ありますでしょうか。

【堀委員】

基本戦略4の委員意見について、「農地の多面的な機能を市民に向けて広報する必要がありますが、情報発信だけでなく、実際に食べたり、体験したり」という文章がわかりにくいと思う。

【竹本会長】

「もっと市民に向けた広報を」という意見であったと思います。「ありますが」という否定ではなく、「今まで十分でなかったので、広報する必要である」などの方が分かりやすいでしょうか。

【野村委員】

文が長いので、「広報を強化する必要があります。」で文章を1回切り、「情報発信だけでなく」とつなげてはいかがでしょうか。

【事務局：伊東課長】

ありがとうございます。改行は必要でしょうか。

【竹本会長】

改行しなくて良いと思います。

【梶委員】

6ページ基本線戦略3>目標2>実績欄に「市内農業者団等と連携し」とあり、7ページ基本戦略4>目標2>今後の方向性欄には「関係団体等と連携し」とあります。そして7ペ

ページ「基本戦略4>目標3>今後の方向性欄」には「関係機関等」とあります。この関係団体、関係機関について、例えばJAを示しているのであれば記載すれば良いと思うし、複数の場合も記載を統一してわかりやすくした方が良いのではないかと。

【事務局：伊東課長】

御指摘のように複数でも関係団体が同じであれば統一した書き方に、複数でなくJAさんなど特定の団体であれば記載する等、見直しさせていただきます。

【堀委員】

6ページの「基本線戦略3>目標3>今後の方向性」では、「JA等」としている。すべてJA等という記載にするのはどうでしょうか。

【事務局：伊東課長】

そちらも含めて表現を検討します。

【野村委員】

SDGsマーク掲載について、上位計画に準じたということですが、基本戦略1「持続的・自立的な農業経営にむけた支援」などは、SDGs目標8の「働きがいも経済成長も」に該当するのではないかと。

【事務局：伊東課長】

上位計画の川崎市総合計画ですが、これは市全体の計画ということでSDGsの項目は全て何かに関わるのですが、その中で各分野ごとに最も関係の深いものに割振りがされていまして、農業分野には掲載させて頂いている、5項目が割振られており、それを掲載させて頂いております。

【竹本会長】

SDGs目標8が実際問題として無関係という訳ではないと思いますが、この冊子では川崎市の計画のSDGsに準じて掲載しておりまして、行政計画として上位計画に矛盾することは難しいということもあるでしょうから、御理解いただければと思います。事務局も次の市の総合計画を決める際には、委員意見の反映に努めてください。それでは本日欠席委員の冊子案についての書面意見を事務局から説明をお願いします。

【事務局：田中係長】

事務局から書面意見を読み上げて御紹介させていただきます。

徳田委員

「川崎市農業振興計画のミッションと目標、具体的な戦略、関連動向、さらに重点的な方向性の明示、具体的な実績状況、委員会委員の意見、関連図表など、中間総括として十分なものと考えます。」

長谷川委員

「担い手、耕作地保全の課題がありますので、張合いのある方向に期待する。」

堀越委員

「環境保全型農業の例示をしてわかりやすくした方が良い。」この堀委員の環境保全型農業の例示についての指摘も、既に4ページ**基本戦略1>目標1>実績**を、「害虫の天敵を利用した農薬の散布回数を減らす取組」というように事務局で冊子案に修正対応をさせて頂いておりますので、御報告いたします。

新堀委員

「難しい言葉に注釈をつけてわかりやすくなりました。8ページの図1と図2のグラフが逆転してしまっている。」この新堀委員の指摘についても、既に8ページのグラフ図1と図2について、事務局で冊子案に修正対応をさせて頂いておりますので、御報告いたします。

【竹本会長】

ありがとうございます。石井委員はご意見ありますでしょうか。

【石井委員】

当団体に関係してくるのはSDGsで言えば目標17の「パートナーシップで目標を達成しよう」、冊子で言えば**基本戦略3の**「多様な主体との「共創」による「新たな農業価値」の創造」に含まれることになるかと思います。冊子はわかりやすくされているかと思います。

【竹本会長】

ありがとうございます。越畑委員いかがでしょうか。

【越畑委員】

大丈夫です。

【竹本会長】

牧野委員いかがでしょうか。

【牧野委員】

私事でしばらく出席できなかつたのですが、冊子については、委員の皆さんの意見でかなり直されていますので、大丈夫だと思います。

【竹本会長】

ありがとうございます。秋元委員いかがでしょうか。

【秋元委員】

この委員会での私たちの意見を反映頂いているので、うれしく思います。

【竹本会長】

若干指摘がありましたので、関係団体の表記と **基本戦略4**の委員意見覧については、事務局で文言再検討をお願いします。

【事務局：伊東課長】

はい、わかりました。この修正については、お任せ頂けますでしょうか。

【竹本会長】

それでは、中間総括冊子案について、委員の皆様の承認を頂けたということでよろしいでしょうか。

(各委員承認)

【竹本会長】

それでは、冊子の今後のスケジュールの説明を事務局からお願いします。

【事務局：伊東課長】

今月下旬に市議会へこの冊子について情報提供することになります。議会で意見や質問が出まして、結果として若干の修正が必要となる可能性もあります、大幅な修正では無い場合には、事務局に一任して頂きたいと考えております。また、印刷時、デザインの関係で微修正の可能性もあります、そういった微修正について、事務局で対応することについて、一任頂きたいと考えております。冊子は3月下旬に印刷、完成となります。

【竹本会長】

市議会への情報提供があり、今後修正の可能性があるということですが、軽微な修正は事務局に一任としてよろしいでしょうか。

(各委員承認)

『3 令和3年度の実績及び令和4年度の主な農政事業について』

【竹本会長】

事務局から説明願いたい。

【事務局：伊東課長、久延課長、井上所長】

資料4 令和3年度事業実績一覧については、中間総括の内容と重複するため、説明は省略し、資料5 令和4年度の主な農政事業を基に説明。

【竹本会長】

委員の皆様から御質問、御意見ありますでしょうか。

【梶委員】

農業技術支援センターの「かわさきつや菜」の推進ですが、どこまで普及させることを目標としているのでしょうか、現在の「のらぼう菜」に取って変わり、広めていくことを考えているのでしょうか。また、「のらぼう菜」生産者への栽培研修で全員が名人のように上手に栽培できるようになってもらいたいと考えていますが、いかがでしょうか。

【井上所長】

「のらぼう菜」に代わって「かわさきつや菜」を栽培してもらいたい、ということではなく、「かわさきつや菜」を知っていただくことで「のらぼう菜」も知って頂きたいですし、川崎市の農産物についても知ってもらいたいと考えています。また、「かわさきつや菜」の特徴として、収穫期が「のらぼう菜」より早い、ということがありますので、できれば一緒に育てて頂いて、収穫時期がずれるので、先に「かわさきつや菜」の収穫し、続けて「のらぼう菜」の収穫に移って頂けると良いのではないかと考えております。技術指導ですが、「かわさきつや菜」は「のらぼう菜」は派生種ですので、それほど育て方に差はありませんので、苗をお配りする際に、マニュアルなどもお渡ししていきまして、そうやって広まっていけば良いと考えております。少し前ですが、2年前に講座を開催し、名人がご存命の時には直に指導をお願いしていたこともあります。栽培技術は、技術支援センターでも持っておりますので、お伝えしていきたいと考えています。

【梶委員】

2月の作物が少ない中で、リレー生産ができるということで、農業者の視点でもありがたいことだと思う。そういったことをもっと広報して頂ければ良いと思う。

【堀委員】

私も自身の農業に携わる活動の中で「のらぼう菜」の育て方は独特のものがあると思いましたが、栽培技術を広めていって頂ければと思います。また、前回もお話しましたが、かわさきのブランド野菜について、整理をお願いしたいと考えております。「かわさきそだち」がどこまでの範囲なのか明確になっていないと思います。何を「かわさきそだち」と言っているのか、セレスモスの販売状況を見ても「かわさきそだち」として「菜果ちゃんシール」を貼っているもの、貼っていないものがあり、よくわかりません。ブランド化を考える上で、整理されていると良いと思う。

【事務局：伊東課長】

「かわさきそだち」や「かわさき農産物ブランド」などについては、川崎市やJAさん等と組織している、「かわさき地産地消協議会」において、御指摘頂いたことを踏まえて、見直しをしているところです。年末の会議の中で、市内産の顔が見えて、新鮮でおいしい野菜ということの総称として使っている「かわさきそだち」とそのキャラクターである「菜果ちゃん」と、久末のトマトなどの特定の地域の農産物ブランドと紛らわしく、広報の上でも課題になっているということで、地区ブランドを廃止して、「かわさきそだち」に一本化して行こうということを考えています。次の会議でそのことを図る予定ですので、堀委員の御意見も次第に形になりつつあると考えております。

【越畑委員】

資料5⑤の新規就農支援の件ですが、農業をやっていると思うのは、働いてくれる人がいない、というところです。大規模な農業者は今、コロナで海外から研修生などが入ってこないで困っていると聞いています。私も援農ボランティアにも謝礼を支払って作業をしてもらっています。援農のグループを頼っている人は黒川地域でもかなりいるのですが、お願いしても、必ず援農に出て来てくれるわけではない状況もありますので、しっかり援農できる人の育成をやって頂けると嬉しい。

【事務局：伊東課長】

農業の担い手については、援農ボランティアもありますし、また新たな担い手というところでは、親元就農で継がれるケース、家族に接点が無くても農業をしたいという方もいると思います。資料5で説明させて頂いた新規就農支援ですが、基本的に今まで農業に接点の無かった方の就農を支援するということです。農地の限りのある本市の実情に合っているのか等の御意見が有るかと思いますが、国の事業でそういった新規就農支援の事業が始まりますので、本市でも取り組みの一つとして次年度開始するというところでございます。

【竹本会長】

来年度の事業について、既に形になってしまっている国の新規就農者支援の事業がありつつも、現実の市内の農業者の要望を汲み取って欲しいということだと思います。

【事務局：伊東課長】

はい、それは他の事業の中で取り組んでまいります。

【竹本会長】

委員の皆様からご質問、御意見ありますでしょうか。なければ令和3年度の実績及び令和4年度の主な農政事業について、本日欠席委員の書面意見を事務局から説明をお願いします。

【事務局：田中係長】

事務局から書面意見を読み上げて御紹介させていただきます。

徳田委員

「都市農業活性化フォーラムの実績などを活用して、多様な主体の参加による農産物のサプライチェーンの強化を図って欲しい、市内産農産物のさらなるブランド化を市とJA共同で進めて欲しい。平行して、担い手、農地の確保、特定生産緑地の指定の円滑な進展、農業振興地域へのてこ入れ等を進めて頂きたい。」

岩井委員

「基本戦略の達成の一助として、委員選出の強み・役割を如何なく発揮活用できる連携の仕組みも必要と考えます。農地保全については、売却・貸借・事業活用等の先進事例も含めて、多岐に渡る情報共有が必要と考えます。」

大西委員

「コロナ禍にも関わらず各事業、様々な人が参加して成果をあげているのは素晴らしい事かた思います。将来的に都市農業を広めていくには、直近の担い手はもちろんですが、今の子ども達に農業の良さを伝え将来関わってもらえるような事も推進したら良いと感じました。」

【竹本会長】

ありがとうございます、他に御意見ございますでしょうか。なければ私から質問1つよいでしょうか。「のらぼう菜」は種でなく苗なののでしょうか、つまり自家採種はできないのでしょうか。

【井上所長】

「のらぼう菜」は自家採種できます。「かわさきつや菜」の方は品種登録しているので種苗法関係で自家採種できず、苗となります。また、他の品種と混合してしまうことがあるので、難しいという面もあります。

『4 川崎市農業振興計画推進委員会の委員改選について』

【竹本会長】

事務局から説明願いたい。

【事務局：伊東課長】

【資料6】川崎市農業振興計画推進委員会審査部会について、を基に説明。次期も既存の委員4名に審査部会委員をお願いしたいと考えておりますが、委員会での確認をお願いします。

【竹本会長】

それでは、出席委員さんの意見を伺う前に、本日欠席委員の書面意見を事務局から説明をお願いします。

【事務局：田中係長】

審査部会委員の継続については、7名の委員から書面で意見を頂いており、7名とも議なしということでした。

【竹本会長】

それでは本日出席の皆様から意見ありますでしょうか、なければ異議なしということで承認として良いでしょうか。

(各委員承認)

【竹本会長】

補足説明しますと、この審査部会については、【資料4】の農業経営高度化支援事業の審査を行っているものです。今年度は、自動草刈りロボットの導入などの事例がありました。最後に、次期委員の状況について事務局から説明をお願いします。

【事務局：伊東課長】

川崎市農業振興計画推進委員会委員名簿を御覧ください。16名の委員の皆様の氏名と所属がありまして、令和4年度の見込の欄に、継続・交代などの情報を入れております。な

お、市民委員については、9名の応募があり、現在も選考手続きを進めているところです。

【竹本会長】

それでは、今回が現在の委員での会議は最後になりますので、この委員会にご参加頂いた委員の皆様の感想を頂きたいと考えております。まずは本日欠席委員の感想を事務局からお願いします。

【事務局：田中係長】

事務局から欠席委員の感想を読み上げて御紹介させていただきます。

徳田委員

「農業に関わり、支える多様なステークホルダーの方々の率直な意見表明は、計画推進の大きな力になっていると感じている、できるだけ、それら意見を具体的な施策に反映していきたい。」

長谷川委員

「地域に貢献できなかった。」

新堀委員

「任期最後の会に出席できず、残念です。コロナ前、この会で川崎の畑を見学したことが思い出されます。3年間ありがとうございました。」

岩井委員

「先祖代々受け継がれた私有地としての田畑を、時代の趨勢とともに維持管理しておられる生産農家の皆様に、規制による損失を生じさせることなく、十分に配慮した行政をはじめとする施策支援が益々重要になると痛感いたしました。地域振興並びに経営支援として商工会議所がお役に立てれば幸いです。6年間ありがとうございました。」

大西委員

「スケジュールが合わない日が多く、実際に参加した回数が少なく、誠に申し訳ありません。開催予定日を早めに示して頂けると予定を抑えやすいかと思っておりますので、今後、御検討頂ければと思います。3年間ありがとうございました。」

遠藤委員

「平成31年4月より川崎市農業振興計画推進委員として3年間参加させて頂きありがとうございました。以前から農業に関心がありました。農地周辺に住宅が乱立し始めこの先

この環境で農業ができるか不安でした。3年間、竹本会長さんを始め委員の皆さんの様々な御意見を拝聴し又は現地を視察させて頂き、其々の環境で工夫して農業収益を上げている事など勉強になりました。農業従事者の高齢化と後継者不足に対して技術援助や経営強化の支援体制拡充、又は農産物ブランド化や販路開拓をJAと流通業者の一体感をつくり上げ、新たな農業価値の創造で生業としての農業経営で安定した収入を得る事など、生産緑地制度など活用して農業経営が将来に希望を持って継続的に続けられる環境が整う事を望みます。私事で体調を崩して会議に参加できないこと大変申し訳ございません。竹本会長さんや会員の皆様のコロナ禍ではありますが、御活躍を祈念いたします。」

堀越委員

「都市のマスタープランを作成するにあたり、消費者・地域住民の意見に配慮する必要性が高いと感じました。多方面からの意見を取りまとめ、わかりやすく資料化していただきありがとうございます。次年度もよろしく願いいたします。」

【竹本会長】

ありがとうございました。本日出席委員の皆様からも御感想を頂ければと思います。

【梶委員】

3年間ありがとうございます。私は引き続きとなるかと思いますが、農協を代表して出席させて頂いておりますので、まずは農業の振興と農地の保全ということを大前提に考えさせて頂いております。特定生産緑地制度ですが、まだ結果は出ておりませんが、94～95%程度は申請されて農業を継続されるのではないかと報告を受けております。まだ10年間、特定生産緑地として農業を継続される方がいるということは、希望がもてることであると考えております。この委員会で委員の皆様から頂いた御意見も参考にして、できることなら今後は行政と歩調を合わせて進めていけると良いなと考えております、よろしく願いします。

【越畑委員】

この川崎市の委員会に参加させて頂きありがとうございました。会議で議論したことについて、所属する農業者団体に持って帰ってきちんと話ができている部分があり、ここでの議論が農業者みんなに届いているわけではないということは現実だと思いますし、これからそういったことができれば良いなと考えております。私も様々な意見があることも意識しながら、農業者としてまだ頑張っていこうと考えています。ありがとうございました。

【牧野委員】

3年間ありがとうございました。個人的な事情もあり、半分くらいしか参加できなかった

のですが、川崎市青年農業者協議会は、主に30代、40代、のこれから川崎の農業を担う方が中心でやっています。次期委員は私よりも若い方が出ます、若手の意見として聞いてくださればと思います。ありがとうございました。

【秋元委員】

市民委員として学生時代から参加させて頂いて、自分の活動としては大学の研究から派生して、色々な農業の活動を20代の若い人達と一緒にやっという活動に繋がっていますので、この会に参加させて頂いたことを還元できるようにしていきたいと考えています。3年間ありがとうございました。

【堀委員】

3年間ありがとうございました。私は市民委員として応募させて頂いて、NPO法人みどりなくらしで、食と農、環境をテーマとした活動をしています。川崎野菜作りもして、子ども食堂に提供したら、子ども達が野菜をすごく食べるようになったと感想を頂いた。川崎は都市部でありながら、農業が盛ん行われていて、新鮮な野菜を食べられる恵まれた環境で、地元子ども達に、川崎野菜をたくさん食べて育ってもらいたいと考えています。同時に、市内で農業が継続されるためには、次世代の農業に携わる方が増えなければならないですが、必ずしも農家に生まれなくても、農業をやりたいという方が増えるといいなと思います。私どもの活動の中で、例えば、草むしりに夢中になっているお父さんさんがいて、個人的に生産者と交渉して、お手伝いしている方がいらっしゃる。そう言った方は、定年後に農業に携わり続けて、就農につながる可能性もあるかと思います。地道な活動ですが、継続していきたいと考えております。JAさん等にもこれからお世話になることがあるかと思ひます、引き続きよろしくお祈いします。

【野村委員】

川崎市生活協同組合運営協議会の野村と申します。団体としてはかわさき生活クラブに所属しておりまして、川崎で活動する生協です。川崎市では「SDGsゴールドパートナー」や、「脱炭素アクションみぞのくち」に関わっておりまして、市民活動団体としての側面も大きい団体です。農業では、向ヶ丘の生産者さんとお付き合いさせて頂いて、お世話になっております。私自身は幸区に住んでいるので、農地はあまり馴染みが無かったのですが、活動を通じて、農業の振興をどうしていくのかということについては、私自身の身近に畑が無いからこそ地域に農のある生活は良いなと考えています。団体としては今、向ヶ丘以外の地域の生産者さんにもお伺いして、何か一緒にできると良いなとお話しさせて頂いています。委員名簿に4月継続とさせて頂いておりますが、団体の委員改選時期の関係で、実際には別の者になる可能性があります、ありがとうございました。

【石井委員】

3年間ありがとうございました。私は、障害者福祉施設事業協会に所属しておりまして、この団体は主に市内の福祉施設、とりわけ知的障害、精神障害の就労継続支援の事業所でいろんな活動をしておりまして、この会でも1つ見学しましたが、他にもしいたけ、きくらげを作って販売しているところもあります。特に精神障害支援施設の方と、生産者さんとコラボして、ジャムやクッキーを作っているところもあります。できればそういったことが市内でもっと発展すれば、市内農業の発展にも良いものかと思いますが、次期委員に託したいと思います。次期委員は施設協会の会長がつかますのでよろしくお願ひします。そしてパラアートですが、パッケージデザインなど機会があれば、お声掛け頂ければ何かご協力できることもあると思います。3年間ありがとうございました。

【竹本会長】

私は、徳田先生と同じく次年度以降引き続き務めさせていただきます、よろしくお願ひいたします。明治大学は黒川の農業があり例年は農場まつりを開催し、大学祭でも野菜を販売していましたが、コロナ禍で市民の方に来ていただいて開催するのが難しい状況でした。またコロナが収まったら、開催したいと考えています。学生の話を紹介しますと、ヤンマーという会社が毎年、学生懸賞年論文の募集をしております、去年は私のゼミの学生が、農業と福祉という内容で論文を書いて優秀賞をもらいまして、今年もゼミの学生が、破棄されてしまう野菜をいかにブランド化するか、という内容で賞をもらいました。梶委員からも市と農協の協力を、というお話しがありましたが、日本で行政の区域と農協の区域が一致しているところはあまりないので、川崎はそれを生かして協力していければ、より農業の発展につながるのではないかと期待するところです。委員の皆さんから何か言い残したことなどが無いようでしたら、事務局からお知らせなどあればお願ひします。

【田中係長】

委員の皆様3年間お世話になりました、ありがとうございました。各団体の皆様におかれましては、来年度以降も委員を推薦頂いて、次年度も開催していきたいと思ひますのでよろしくお願ひいたします。今回は、令和4年の7月を予定しております。

【竹本会長】

これで令和4年度第3回推進会議を終了します。ありがとうございました。

以上